

大正拾年奈良縣統計書

凡 例

(1) 大正拾年奈良縣統計書ハ次ノ二編ヨリ成リ本書ハ其第一編トス

第一編	1、土地	2、戸口	3、教育
	4、社寺及教會	5、慈惠及褒賞	6、警察
	7、裁判及登記	8、衛生	9、交通
	10、災害	11、財政	12、議員選舉
	13、官公吏及恩給	14、附錄	
第二編	1、氣象	2、農業	3、工業
	4、山林及狩獵	5、鑛業	6、漁業
	7、家畜及家禽	8、商業及會社	9、産業組合及同業組合
	10、電氣事業及瓦斯事業	11、郵便爲替貯金勤儉貯蓄	
	12、度量衡	13、銀行及金融	14、輸出入品
	15、附錄		

(2) 本編收ムル所ノ事實ハ廳内主務課ノ調書、郡市役所ノ報告書類及他官署若シクハ公私團體ヨリ蒐集セル材料ニ因リ編製セリ

(3) 各表題ノ下ニ大正年トアルハ曆年間ノ事實、大正年度トアルハ會計年度間ノ事實ニシテ年末又ハ年月日トセルハ其日ノ現在數ナリ

(4) 單位ハ概テ圓、石、貫、斤、町、坪等ノ一位ニ止メ下ノ端數ハ四捨五入法ニ依リ記載ス、但シ小數ノ記入ヲ要スルモノハ其ノ一位ニ(●)ヲ付シ又一位以上ノ計數ハ三位法ニ從ヒ右端ヨリ三桁毎ニ(,)ヲ付ス

(5) 表中掲載スベキ事實ナキモノハ(-)ヲ付シ事實不詳又ハ調査未了ノモノハ(?)ヲ記シ計數ノ一位ニ滿タザルモノハ(0)ヲ填充ス

概 説

第 一 土 地

位 置 本縣ハ畿内ノ東南部ニ位シ大和全國十郡一市ヲ管轄ス東ハ三重縣ニ境シ西ハ大阪府ニ隣リ南ハ和歌山縣ニ境シ北ハ京都府ニ接ス東經百三十五度三十三分ヨリ起リ百三十六度十二分ニ至リ北緯三十三度五十二分ヨリ三十四度四十七分ニ至ル、

地 勢 南北ニ長ク東西ニ狭ク山岳四面ヲ圍繞シテ北方纔ニ開通ス東ハ三國山、高見山、大臺ヶ原山、備後山等ノ群峰ヲ隔テ、伊賀伊勢紀伊ニ境シ南ハ峻嶺相重リテ紀伊ノ諸嶮嶽ト交叉シ西ハ金剛、葛城、信貴、生駒ノ連山起伏シテ河内ノ國界ヲ畫ス

山嶽及河川 山嶽ノ大ナルモノハ七面山、佛經岳、彌山、釋迦ヶ岳、大臺ヶ原山、國見岳等ニシテ何レモ南方ニ巍峨屹立ス、河川ハ飛鳥、富雄、龍田、葛城其他數多ノ小川合流シテ大和川トナリ西流シテ河内、和泉、攝津ノ國ヲ經テ海ニ入ル、宇陀川ハ宇陀郡ニ發シ伊賀國ヲ經テ名張川トナリ再ビ遙ニ北部ヲ匯リテ山城國ニ赴ク、吉野川ハ源ヲ大臺ヶ原山ニ發シ中央ヲ貫流シテ紀ノ川トナリ海ニ至ル又十津川、北山川ハ俱ニ吉野郡ノ山間ニ發シ紀伊國ヲ過ギテ南海ニ注グ、河流概テ急湍ニシテ吉野川ヲ除ク外舟楫ノ利ヲ欠キ時ニ汎濫ノ憂アリト雖モ吉野川、十津川、北山川ハ何レモ流筏ノ便アリテ木材輸出上利便少カラス、

面 積 本縣ハ東西十六里十二町、南北二十六里一町、面積二百四十一方里餘ニ亘リ畿内五國中最大ナルモノナリトス而シ其九割二分二厘ハ民有有租地一分六厘ハ免租地及年期地ニシテ再餘ノ六分二厘ハ官有地ナリトス更ニ之ヲ郡市別ニ觀處スルトキハ郡ノ最大ナルモノハ吉野郡ニシテ其ノ面積實ニ本縣ノ六割二厘強(百四十五方里六六)ヲ占メ其他宇陀、山邊、生駒、添上、磯城等ノ各郡順次之ニ亞キ奈良市ノ一方里六分七厘ヲ最小トス

地 質 本縣ノ地質ハ錯雜混入スレドモ之ヲ分類スレハ南半ハ大部分古生層ニシテ中生層ハ其南端ノ一部ヲ占メ北半ハ火成岩ヨリ成ル、地質ニハ花崗岩、安山岩アリ水成岩層中ニハ片麻岩第三紀、第四紀層アレドモ第四紀層ハ概テ農耕地トナリ森林地ハ片麻岩層ノ地多ク之ニ亞イデハ第三紀層ナリトス其ノ他ノ地層ハ是等ノ間ニ介在シテハ面積ノ地ヲ占ムルノミ

民業及物産 民業ハ農業ヲ主トシ山地ニ在ルモノハ林業ヲ兼ネ又市街地ニ在ルモノハ專ラ商工業ニ從事シ養蠶、製茶ヲ業トスルモノモ尠カラズ物産ノ主ナルモノハ米、織、物、綿絲紡績、賣藥、木材、酒、繭、麥、蠶絲類(以上産出價額參百萬圓以上)木製品、莫大小、凍豆腐、獸肉(同百萬圓以上)等ニシテ其ノ生産總額實ニ壹億壹千四百五拾七萬參千四百貳拾貳圓(一人當百九拾壹圓)ナリトス今之ヲ前年ニ萬比スルニ總額ニ於テ九百五萬貳千貳百壹圓、一人當ニ於テ拾八圓

ヲ減ゼリ是レ一般物價ハ歐洲戰亂ノ餘波ヲ受ケ益々昇騰ヲ持續シ來リシモ戰亂終熄ト共ニ漸次安定ノ機運ニ向ヒ殊ニ本年ニ至リテハ農産物報告規則ノ改正ニ伴ヒ産業統計ノ調査方法ニ於テ幾多ノ變更アリシト米價其ノ他ニ於テ頓ニ低落ヲ見ルニ至リシ結果トス凍豆腐、筆、墨、麵類、貝鉛、漆器等ノ特種物産ハ産額四百萬圓以上ニシテ其ノ他香魚金魚等ハ産額多カラズト雖モ著名ナルモノナリ、

第 二 戸 口

人 口 大正十年末ニ於ケル現住人口ハ男三十萬三百五十、女二十九萬七千五百六十二總計五十九萬七千九百十二人ニシテ之ヲ同年末本年籍人口ニ比スレバ七萬一千八百五十七人少シ之レ近時人口ノ都會ニ集注スルモノ多キヲ加ヘタル爲ニシテ就中大阪、京都、東京、兵庫、三重等ノ各地ヘ移住スルモノ最モ多シ今現住人口ヲ全面積二百四十一方里八四ニ割リ當ツルトキハ平均一方里ニ千四百七十二人ニシテ更ニ之ヲ郡市別ニ掲載スレバ次ノ如シ

添 上	3,575	生 駒	5,915	山 邊	3,214
磯 城	7,518	宇 陀	1,587	高 市	8,940
北 葛 城	10,827	南 葛 城	7,566	宇 智	4,547
吉 野	741	奈 良	25,098		

本表ニ依リテ之ヲ見ルニ平均一方里ノ人口トシテ最密ナルハ奈良市ノ二萬五千九十八人ニシテ北葛城、高市、磯城、南葛城、生駒、宇智、添上、山邊ノ各郡順次之ニ亞キ最疎ナルハ吉野ノ七百四十一人、宇陀ノ一千五百八十七人ナリトス之ヲ要スルニ本縣ニ於ケル人口ノ分布ハ西北部ノ平坦ニ於テ稠密ニシテ東南部殊ニ南方山間ニ進ムニ從ヒ漸次稀薄トナルモノトス蓋シ本縣ハ奈良市ノ如キ市街地ヲ除クノ外ハ農耕業ヲ以テ生業トスルモノ多キガ故ニ吉野、宇陀ノ如キ山地ヨリモ比較的耕作ニ利便ナル北葛城、高市、磯城ノ諸郡ニ集合スルモノナルベシ、

戸 數 大正十年末現在戸數ハ十萬七千七百ニシテ一戸ノ平均人口ハ五人五分五厘ニシテ全國ノ五人ニ比較スレハ稍々多シ今之ヲ前年末ニ比較スレハ一千二十九、又五年前(大正五年末)ニ比較スレバ一千九百十二戸ノ増加ナリ、前年ニ比シ比較的多數ノ増加ヲ示セシハ主トシテ稠密ナル調査ヲ行ヒタル爲ニシテ何等特殊ノ事由アルヲ認メズ

著名ノ都邑 本縣ニ於ケル市街地トシテ最モ著名ナルハ奈良市(縣廳所在地)ニシテ人烟稠密縣下第一ノ都會タリ、奈良ハ本邦最古ノ帝都トシテ又有名ナル奈良公園、春日山ノ所在地トシテ夙ニ人口ニ膾炙シ土地又閑雅ニシテ名所舊蹟ニ富ミ殊ニ京阪ノ中樞ニ當レルヲ以テ益々隆盛ヲ見ルニ至レリ其ノ他千戸以上ノ都邑ハ十七アリテ郡山、高田、丹波市、十津川、下市、五條、大淀川上ノ各地順次之ニ亞ギ何レモ千五百戸以上ナリトス、

第 三 教 育

學齡兒童 大正十年度末ニ於ケル學齡兒童ノ總數ハ男五萬九千六百六十六人、女五萬七千三百三人計十一萬六千七百六十九人ニシテ前年度ニ比シ二千百十七人ヲ増加セリ内就學ノ始期ニ達シタル者男五萬二千九十一人、女四萬九千七百七十七人、計十萬一千八百八十八人、未ダ就學ノ始期ニ達セザルモノ男七千五百七十五人、女七千三百八十六人、計一萬四千九百六十一人ナリ之ヲ前年度ニ比スルニ總數ニ於テ男一千三十四人、女一千八十三人、計二千百十七人ヲ増加セリ最近五ヶ年間ニ於ケル學齡兒童數ヲ列記スレバ次ノ如シ

	既ニ就學ノ始期ヲ達シタルモノ	未ダ就學ノ始期ニ達セザルモノ	計
大 正 六 年 度	93,410	15,403	108,813
大 正 七 年 度	94,229	14,856	109,095
大 正 八 年 度	98,905	14,844	113,749
大 正 九 年 度	100,102	14,550	114,652
大 正 十 年 度	101,808	14,961	116,769

學齡兒童中尋常小學校ノ教科ヲ修ムルモノト其ノ業ヲ卒ヘタルモノト掲記スレバ十一萬一千三百八十五人ナリ、不就學兒童總數四百二十三人ニシテ就學猶豫二百七十七人、就學免除百四十六人ナリ、既ニ就學ノ始期ニ達シタル學齡兒童百人中就學歩合ハ九九・六五ニシテ前年度ヨリ〇・一四ノ増加ヲ來セリ、兒童ノ就學並ニ出席ニ關シテハ從來發布シタル縣令、訓令、其他ノ法規ニ依リ督勵ヲ怠ラスト雖モ未ダ全ク良好ノ域ニ達セザルハ遺憾トスル所ナリ、

小 學 校 大正十年度末ニ於ケル市町村立小學校總數ハ三百五十七ニシテ尋常小學校百七十九、尋常高等小學校百六十五、高等小學校十三ナリ之ヲ前年度ト比較スルニ總數ニ於テ二校ヲ減ジ尋常小學校ニ於テ四校、高等小學校ニ於テ一校ヲ減ジ尋常高等小學校ニ於テ三校ヲ増加セリ、最近五ヶ年間ニ於ケル小學校數ヲ表記スレバ次ノ如シ

	尋 常 小 學 校	尋 常 高 等 小 學 校	高 等 小 學 校	計
大 正 六 年 度	196	144	15	355
大 正 七 年 度	202	147	14	363
大 正 八 年 度	197	155	14	366
大 正 九 年 度	183	162	14	359
大 正 十 年 度	179	165	13	357

學校設備ノ狀況ハ畧ホ整備シ就學兒童ノ増加ノ爲又ハ學校併合ノ爲増築ヲ要スルモノ及一部校舍ノ改築ヲ要スルモノ等夫々適當ナル措置ヲ取リツ、アリテ漸次完備ノ域ニ達シアルノ狀況ナリ、

小學校ノ學級數ハ尋常科千六百五十、同補習科七、高等科二百九十五、同補習科十四ニシテ正

教科ノ總數一千九百四十五ナリ、學級數ハ前年度ト比較スルニ尋常科ニ於テ二十七、高等科ニ於テ二十七ヲ増加シ補習科ニ於テハ十三ヲ減ジタリ

補習科ヲ設クルモノハ尋常小學校及高等小學校ヲ通シ總數二十五校アリ、高等小學校ノ補習科ニ在リテハ概テ女子ノ爲ニ裁縫ヲ教授スルヲ以テ主タル目的トシ尋常小學校ニ在リテハ概テ尋常小學校ノ教科ヲ補習セシメンガ爲ニ設クルモノナリ、

小學校教員ノ總數ハ二千百七十人ニシテ其ノ資格別人員ヲ掲記スレハ次ノ如シ、

	男	女	計
小學校本科正教員	1,030	338	1,368
尋常小學校本科正教員	219	60	279
小學校專科正教員	3	80	83
准 教 員	64	6	70
代 用 教 員	169	201	370
計	1,485	685	2,170

幼稚園 ハ六アリテ町立ニ係ルモノ五、内四ハ小學校ニ付設シ小學校ノ校舍ノ一部ヲ使用シ五條幼稚園及私立ニ屬スル聖ヨハネ幼稚園ハ特ニ園舎ヲ設ケタリ幼稚園ノ總數ハ十五、保母九人助手六人アリテ保育ノ方法ハ漸次改善シ設備内容ノ完成ニ勗メ成績ヲ擧ゲツ、アリ

本年ニ於ケル入園兒四百五十六名ニシテ前年度ニ比シ二十四名ヲ増加セリ、保母及園兒ニ關スル最近四ヶ年累計ニ比較ヲ表示スレハ次ノ如シ

	園 數	保 母	助 手	幼 兒			保 育 滿 期 幼 兒 數		
				男	女	計	男	女	計
大 正 七 年 度	6	9	6	250	250	500	168	158	326
大 正 八 年 度	6	10	—	248	263	511	168	189	357
大 正 九 年 度	6	9	6	273	274	547	183	168	351
大 正 十 年 度	6	9	6	277	292	569	213	225	442

盲啞學校 本縣ニ於ケル盲啞教育ニ關スル施設ヲ大正九年度ニ於テ初メテ私立奈良盲啞學校ノ設置ヲ見ルニ至リ此ノ欠陥ヲ補フヲ得タリ

修業年限ハ普通科五年投藝科四年ニシテ學校ノ設備未ダ完全ノ域ニ達セズ生徒及教員ノ關係上教啞部ハ之ヲ欠キ訓盲部ノシヲ收容セリ

各種學校 小學校ニ類スル各種學校ハ二十八校アリテ概テ小學校ニ付設セリ生徒數ハ男二十二女人一千百五人ニシテ主トシテ女子ニ必須ナル裁縫、手藝等ヲ教授セルモノナリ教員ハ主トシテ小學校教員中ヨリ之ヲ兼務セリ、

其他ノ各種學校ハ十校アリテ何レモ私立ニ係リ學科程度等區々ナリ即チ原教々師ノ養成ヲ目的トスルモノ又ハ宗教ノ財團ニ依リ設置シタル結果トシテ學科目中ニ教義ノ一科ヲ置ク關係上高

等女學校トシテ經營シ難キモノ等アリテ様ナラズ生徒數ハ男一千二百二十五人、女一千百六十五人、計二千三百九十人アリ、

師範學校 本縣ノ師範學校ハ明治二十一年ノ創設ニシテ明治三十四年女子部ヲ設置シタルモ同三十八年ニ至リ之ヲ慶シテ女子師範學校ヲ設置セリ、生徒男子師範校二百九十一人、女子師範校百九十五人ニシテ本年度ニ於テハ男子師範學校ニ始メテ豫備科ヲ設置シ三十九名ヲ收容シタリ本年度ノ卒業生ハ男五十九名、女七十二名ナリ、

本年度生徒ノ入學ハ頗ル良好ニシテ志願者多ク優良ナル生徒ヲ選抜スルヲ得タリ即チ男子師範學校ニ在リテハ約倍數ノ入學志願者ヲ得ダリ、女子師範學校ニ在リテハ第一部生ハ志願者募集人員ノ約三倍ニ達シタルノ狀況ナリ、但シ第二部ニ在リテハ能ク多數ニ上ラザリキ、

教員ノ有資格者ハ男二十七名、女四名計三十一名ニシテ外ニ兼務者一名アリ、附屬小學校訓導ハ男十八名女三名計二十一名ナリ、

附屬小學校ハ兩師範學校ニ付設シ就學兒童數兩校合シテ尋常科男三百四十七人、女三百二十九人、高等科男三十五人、女六十一人ナリ、學級ハ師範學校ニ在リテハ十三、女子師範學校ニ在リテハ七學級ナリ

高等普通教育 ニアリテハ縣立中學校三、私立中學校二、縣立高等小學校一、全町立高等女學校全郡立高等女學校三校アリ、中學校ニ於テハ新ニ定員ヲ四百名増加シテ教育機關ノ擴張ヲナセリ教育總數ハ百八十六人外ニ兼務者一人アリ中學校生徒總數二千三百三十七人、高等女學校生徒總數二千人ニシテ本年度卒業生ハ中學校三百一十一人、高等女學校四百十四人ナリ、

實業教育 ニアリテハ縣立工業學校一、全農林學校一、全商業學校一、及郡立吉野工業學校一、添上農學校一アリ乙種程度ニ屬スルモノハ郡立農學校二、村立農學校二、職業學校ハ私立一、町村立四アリテ内一校ハ大正九年四月ヨリ開校セルモノニ係レリ、教員數ハ九十九人アリ、生徒總數ハ男一千二百四十九人女六百四十五人ニシテ本年度卒業生ハ男三百三十人、女百七十四人ナリ、

實業補習學校ハ町村立二百五十一校私立一校アリ前年度ニ比シ三十五校ヲ減シタリ、此ハ内容ノ充實設備ノ完成ヲ期スルガ爲ニ小規模ニ屬スルモノヲ廢合シタルノ結果ニシテ其多クハ小學校ニ付設シ其ノ教授ハ小學校ノ教員之ヲ兼務セルモノ本年度ニ於テハ新ニ專任教員三十七人ヲ算スルニ至レリ、生徒數ハ男一萬二千五百五十六人、女二千六十八人ニシテ前年度ニ比シ二百三十六人ヲ増加セリ、本年度ノ卒業生ハ男四千四人、女三百六人ナリ

實業補習學校教員養成所ハ縣立農林學校内ニ併設シ本年四月ヨリ開校シタルモノニシテ在學生徒十九名ナリ教員ハ總テ農林學校教員中ヨリ之ヲ兼務セリ、

公學費 本年度ニ於ケル公學費ヲ通算スルニ總額參百四拾四萬壹千九百拾參圓ニシテ前年度ニ

比シ六拾萬八百參拾四圓ヲ増加セリ、之ヲ區別スレハ縣公學費七拾八萬八千四百貳拾貳圓、郡公學費參拾七萬九百八拾參圓、市公學費拾萬六千貳百拾圓、町村公學費貳百拾七萬六千貳百九拾八圓ナリトス右本年度ニ於ケル縣郡市町村公學費ノ地方費ニ屬スル割合ヲ見ルニ縣公學費ハ縣費總額ノ二割八分餘、郡公學費郡費總額ノ五割五分餘市公學費ハ市費總額ノ二割七分餘、町村公學費ハ町村費總額ノ四割一分餘ニシテ如何ニ教育ノ普及ニ多大ノ力ヲ致セルカヲ知ルベシ

第 四 社 寺

神 社 神社、本縣ニ於ケル神社ハ總數一千五百六十一ニシテ官幣社十縣社八、郷社三十六村社一千百三、無格社四百三、招魂社一ニシテ内神饌幣帛料供進指定神社ハ總數三百八十三ナリトス

寺 院 ノ總數ハ一千六百九十七ヶ寺アリテ天台宗外十二ヶ宗ニ分カレ内最モ多數ヲ占ムルハ真宗ノ六百三十一ヶ寺ニシテ淨土ノ三百四十四真言三百二十一ヶ寺之ニ亞ク又一宗ノ本山タル大寺院ハ華嚴ノ東大寺、法相ノ法隆寺、興福寺、藥師寺、律宗ノ唐招提寺、真言、律宗ノ西大寺新義真言宗豐山派ノ長谷寺アリ、中宮寺圓照寺、法華寺ハ門跡寺院トシテ著名ナルモノナリ本縣ニハ社寺ノ建造物及寶物ニシテ古社寺保存法ニ依リ特別保護建造物及國寶ニ指定セラレタルモノ他府縣ニ比シ多數ヲ占メ殊ニ當代美術ノ代表的作物モ亦尠カラズ何レモ年々國庫ノ補助ヲ受ケ修理セラレツ、アリ、

第 五 慈 惠 及 褒 賞

國費恤窮 人員ハ二百九十八人ニシテ前年ヨリ三十八人ヲ増加セリ其ノ内癱疾百四十七、老衰七十二、疾病四十七、幼弱三十一、棄兒一人ニシテ國費ノ救助金總額ハ壹千貳百貳拾六圓ナリトス

慈善團體 ハ總數五ニシテ内感化事業ニ屬スルモノ一、免田保護事業ニ屬スルモノ一、育兒事業ヲ目的トスルモノ二、養老及育兒事業ヲ目的トスルモノ一ナリ何レモ當時者ノ熱心ニ因リ經營ノ歩ヲ進メツ、アルモ未タ其ノ成績トシテ特記スベキモノナシ、

日本赤十字社及愛國婦人會 ノ事業ハ本縣支部ニ依リテ經營セラル共ニ支部ハ奈良市登大路町ニ在リテ縣下十郡一市ヲ管本轄ス大正十年末ニ於ケル赤十字社員總數二萬二千九百二十人ニシテ前年ニ比シ五百六十七人ヲ増加シタリ、又愛國婦人會員ハ一萬一千四百十四人ニシテ二百五十六人ヲ減ゼリ、

慈惠救濟資金 本縣ニ於ケル慈惠救濟資金ハ大正十年末ニ於テハ拾貳萬參千參百四拾貳圓ニシテ之ニ對スル歲入ハ四萬七百五拾七圓歲出ハ貳萬壹千五百五拾壹圓ナリトス而シテ之レガ經費ハ主トシテ部落改善費、代用感化院費、育兒院及養老院費、補助ニ充當セルモノナリ、

褒 賞 本年ニ於ケル褒賞人員ハ總數百五十六人ニシテ悉ク金穀財産等ヲ寄付セシモノニシテ

衰狀ヲ賜ヒシモノナリ、

第 六 警 察

警察官署 本年末ニ於ケル警察官署ハ警察部ヲ除クノ外警察署十一、警察分署七、警察官派出所二十、巡查駐在所百九十三ナリトス

警察職員 ハ警視二人、警部二十五人、警部補十八人、巡查四百三十四人合計四百七十九人ニシテ前年度ニ比スレハ十五人ヲ増加シタリ、巡查一人ニ屬スル人口ノ割合ハ一千三百五十五人ニシテ前年ニ比シ八人ヲ減小セリ、巡查一人屬人口比例ヲ本分署別ニ見ルニ奈良ハ八百三十九人、シテニ千人以上千五百人以内ノモノハ八木、郡山、五條、榛原其他ハ千五百人以上二千人ニシテ獨リ松山ハ二千七百七十二人ナリ、

檢舉犯罪人 本年中ニ於ケル檢舉犯罪人ハ總數八千八百七十九人ニシテ前年ニ比シ八百二十一人ヲ増加シタリ、内刑法犯ハ三割七分五厘縣全違犯二割九分四厘警察犯處罰令一割三分八厘、諸條令諸規則違犯一割九分二厘ニ該當ス

盜 難 本年中ニ於ケル強盜ハ三件、窃盜ハ一千六十五件ニシテ前年ニ比シ前者ハ十一件ヲ減ジ後者ハ七件ヲ増加セリ拘模ニ遭ヒシ人ハ一人、詐欺及恐喝ニ遭ヒシ人ハ五百八十七人ニシテ前年ト比較スルニ前者ハ同ジク後者ハ百八十人ヲ減ジタリ

第 七 裁 判 及 登 記

民事裁判 大正十年ニ於ケル各區裁判所終局民事事件數ハ五千七百八十六件ニシテ前年ニ比シ二百七十二件ヲ増加シタリ、終局ノ内譯ハ和解事件四、督促事件一千八百六十九、第一審訴訟事件一千四百九十五、抗告件數十一、強制執行百六十四、非訟事件二千二百二十、控訴件數二十三、ナリトス、

登 記 大正十年ニ於ケル登記ハ四萬六千五十八件、登録稅ハ五拾參萬參千參拾貳圓ニシテ前年ニ比シ登記ハ二千八十四ヲ減ジ登録稅ハ四萬八千五百五拾四圓ヲ減少セリ登記ノ内譯ハ不動産、四萬四千九百六十二件、營利ヲ目的トセザル法人十一件、商業未成年者妻法定代理人及支配人五十七件、商事會社六百二十件産業組合三百八十三件、住宅組合一件、工場財團二件、立木二十二件ナリトス

第 八 衛 生

醫師藥劑師及産婆 大正十年末ニ於ケル醫師ハ三百四十一人、齒科醫ハ五十五人、藥劑師ハ三十七人、産婆ハ三百九十四人ニシテ之ヲ前年ニ比スレバ醫師十二人、齒科醫十二人ヲ増加シ藥劑師四人産婆十一人ヲ減少シタリ、人口ニ屬スル比例ハ一萬人ニ付醫師ハ五・七〇、齒科醫〇・九二、産婆ハ六・五九ニ當レリ、醫師ノ人口比例ヲ郡市別ニ見レバ奈良ノ一・九三最モ多ク宇智ノ七・八二、山邊ノ六・四一之ニ亞ギ其他ハ六人以下ニシテ最モ少キハ高市ノ三・六九ナリ

トス

種痘 大正十年ニ於ケル第一期種痘即チ出生ヨリ六ヶ月迄ニ行ヒタル公種痘ハ一萬八千八百八十七人ニシテ前年ニ比シ二千三百七十一人ヲ増加シタリ其ノ善感割合ハ九割四分ニシテ殘餘ノ六分ハ不善感及檢診未了ナリ、同年ニ於ケル第一期私種痘ハ六十二人ニシテ前年ニ比シ三十五人ヲ減少シタリ其ハ悉ク善感者ナリ、

第二期種痘即チ數ヘ年十歳迄ニ行ヒタル公種痘ハ一萬七千三百十一人ニシテ前年ニ比シ百六十一人ヲ減ジタリ、其ノ善感割合ハ六割二分ナリ、同年ニ於ケル第二期私種痘ハ二十五人ニシテ前年ニ比シ五人ヲ減ジタリ其ノ善感割合ハ八割四分不善感ハ一割六分ナリ、

法定傳染病 大正十年度ニ於ケル法定十種傳染病患者ハ八百二人ニシテ中腸窒斯扶四百七十七人、パラチブス百五十人、實布埜利亞八十六人、赤痢七十八人、流行性髓脊髄膜炎五人痘瘡四人、猩紅熱二人ナリトス、各症死亡率ハ患者百ニ付流行性性髓脊常髓膜炎四〇・〇〇、赤痢三〇・七、實布埜利亞二七・九一、パラチブス二一・八〇、虎列刺一九・るどニシテ順次之ニ亞グ、

第 九 交 通

道路 國道十五號線ハ奈良ニ起リ北方山城ノ國ニ通ズ延長一里二町九間、縣道ハ百二十七路線延長二百九十九里餘アリテ其中著名ナルモノ三線アリ、奈良大阪線、奈良津線、奈良和歌山線トス、何レモ奈良ヨリ起リ西、東、南方ニ至ル其他著大ノ道路上市松坂線、榛原久居線、奈良月瀬線、上市木本線、笠置榛原線、天川下市線、丹波市上野線、高見名張線、五條本宮線ノ九線アリテ之ニ加フルニ市町村道路ハ延長一千六百二十八里餘ニ達ス、

鐵道 ハ大阪ヲ起點トシ王寺奈良ヲ經テ名古屋ニ通ズル關西本線アリ又王寺ヨリ分岐シ高田五條ヲ經テ和歌山ニ通ズルモノ、奈良ヨリ櫻井ヲ經テ高田ニ通ズルモノ及ビ奈良ヨリ京都ニ通ズル官設鐵道ノ外吉野、初瀬、大和、天理ノ私設輕便鐵道アリ吉野輕便鐵道ヲ南葛城郡ノ吉野口ニ起リ吉野郡大淀町大字北六田ニ至リ、初瀬輕便鐵道ハ櫻井ヨリ起リ初瀬ニ通シ大和鐵道ハ王寺ヨリ櫻井ニ至リ天理輕便鐵道ハ法隆寺ヨリ丹波市町ニ通ズ又大阪電氣軌道ハ大阪上本町ヲ起點トシ生駒山ヲ慣通シテ奈良市ニ通シ西大寺ヨリ分岐シ郡山、田原本ヲ經テ畝傍御陵、橿原神宮ニ達スルモノアリ其總延長九十哩餘ニシテ貨物ノ運輸交通ノ便ホ備ハレリ、

索道 本年度ニ於ケル索道數ハ、凡總延長百三十餘里ニシテ山間部ニ於ケル物資運搬ノ重要機關ナリトス、

通信機關 ハ明治四年末開始以來漸次完備シ現在ニ於テハ郵便局九十七、電話取扱局七十一ヲ算スルニ至レリ、

第 一 〇 災 害

暴風雨被害 大正十年ニ於ケル暴風雨被害損失見積價額ハ貳百九拾參萬貳千八百餘圓ニシテ前年ニ

ニ比スレバ貳百四拾八萬八千圓ヲ増加シタリ、損害田畑五十八町五段歩建物一千七十四棟、船舶六隻、人ノ死亡五人負傷二十三人ニシテ被害ノ最モ甚シカリシハ大和川流域ナリトス、

火 災 本年中ニ於ケル火災ノ度数ハ百三十ノ多キニ達シ前年ニ比スレハ二十五ヲ増加セリ中失火ハ百二十五ニシテ九十六%一五ヲ占ム罹災家屋ハ住家及非住家ヲ併セ百八十八棟ヲ美シ損害見積金額拾壹萬五千七百餘圓ニ達ス、

第 一 一 財 政

國 費 大正十年度ニ於ケル國庫支出ノ本縣經費總數ハ六拾壹萬七千五百五拾六圓ニシテ內經常費參拾六萬壹千六百九拾壹圓臨時費貳拾五萬五千八百六拾五圓ナリトス之ヲ前年度ト比較スルニ經常費ニ於テ參萬六千九百四拾四圓ヲ増シ臨時費ニ於テ壹萬四千七百九拾貳圓ヲ減シ總額ニ於テ貳萬貳千五百五拾貳圓ヲ増加シタリ最近五ケ年間於ケル累年比較ヲ表示スレハ次ノ如シ、

	經 常 部	臨 時 部	計	指 數
大 正 六 年 度	172,946	51,829	224,775	100
大 正 七 年 度	188,546	162,469	351,015	166
大 正 八 年 度	320,805	130,871	451,676	201
大 正 九 年 度	324,747	270,657	595,404	265
大 正 十 年 度	361,691	255,865	617,556	275

縣 費 大正十年度ニ於ケル本縣決算總額ハ歲入經常部貳百八拾四萬壹千四百七拾貳圓、臨時部五拾九萬八千貳百九拾圓、總計參百四拾參萬九千七百六拾貳圓ニシテ前年度ニ比スレハ經常費ニ於テ五拾五萬九千四百貳拾圓、ヲ増シ臨時費ニ於テ參萬貳百拾壹圓ヲ減シ總額ニ於テ五拾貳萬九千貳百九圓ヲ増加シタリ、歲出ハ經常部百九拾四萬七百五圓、臨時部八拾六萬千五百四拾八圓、總計貳百八拾萬九千貳百五拾參圓ニシテ前年ニ比スレバ經常部ニ於テ八萬參千五百參拾七圓、臨時費ニ於テ拾壹萬六千七百九拾貳圓、總額ニ於テ貳拾萬參百貳拾九圓ヲ増加シタリ、最近五ケ年間ニ於ケル歲入歲出額ヲ表示スレハ次ノ如シ、

	歲 入				歲 出			
	經 常	臨 時	計	指 數	經 常	臨 時	計	指 數
大 正 六 年 度	1,164,232	278,526	1,442,758	100	738,376	308,715	1,042,091	100
大 正 七 年 度	1,410,803	606,367	2,017,170	140	1,099,673	675,967	1,775,640	170
大 正 八 年 度	1,703,715	505,984	2,209,699	153	1,252,044	575,156	1,827,200	175
大 正 九 年 度	2,282,052	628,501	2,910,553	202	1,857,168	751,756	2,608,924	250
大 正 十 年 度	2,811,472	598,290	3,439,762	238	1,940,705	868,548	2,809,253	270

大正十年度歲入經常部ノ内容ハ縣稅九十一・七二%、雜收入五・〇二%、國庫下渡金三・一九%、財産收入〇・〇七%ナリ、縣稅中地租割ハ總額ノ四十一・九九%ヲ占メ之ニ亞グハ戶數割ノ二十七・一〇%、雜種稅ノ十九・二三%等其ノ主タルモノトス、

歳出經常部ノ中警察費ハ二十六・二一%、土木費ハ二十四・〇三%、教育費ハ十七・五一%、勸業費十三・二三%ヲ占メ居レリ、

郡 費 大正十年度郡歳入決算總額ハ七拾七萬九百四拾壹圓ニシテ前年度ニ比シ參拾四萬九千九百貳拾五圓ヲ増加シタリ、同年歳出決算總額ハ六拾六萬五千七拾九圓ニシテ前年度ニ比シ貳拾九萬壹千七百六拾圓ヲ増加シタリ歳出ヲ地方別ニ見ルニ吉野郡ノ拾五萬圓最モ多ク北葛城郡ノ拾參萬圓南葛城郡ノ九萬圓添上郡ノ八萬圓生駒ノ六萬圓之ニ亞ギ其他ハ五萬圓以下ニ屬セリ、

市町村費 大正十年度決算ニ依ル市町村歳入總額ハ六百四拾九萬六千八百四拾貳圓ニシテ前年ニ比シ四十六萬八千四拾壹圓ヲ増加セリ、市歳入總額ハ四拾五萬八千四百圓ニシテ戶數割付加税ハ全收入額ノ三割四分三厘ニ相當シ爾餘ノ町村歳入額ハ總額六百四萬六千參拾八圓ニシテ一町村平均額參萬九千五百拾六圓ナリ、

歳入中町村税ハ四百貳拾五萬貳千八百八拾四圓ニシテ歳入總額ノ六割五分ヲ占メ其ノ中戶數割附加税ハ四割一分、地租附加税ハ八分強、特別税木材輸出税ハ五分等ナリ又税外收入ノ主ナルモノハ繰越金、財産ヨリ生スル收入寄附金等ナリ、

市町村歳出總額ハ五百六拾四萬六千參百拾貳圓ニシテ前年ニ比スレハ參拾八萬四千四百四拾七圓ヲ増加セリ、市ノ歳出額ハ參拾九萬壹千參百四圓ニシテ支出ノ主ナルモノハ教育費ノ二割八分之ニ亞グハ役所費ナリ、

町村出歳額ハ五百貳拾五萬五千四拾八圓ニシテ平均一町村參萬四千百貳拾四圓ニ當ル之ヲ大正八年度ニ屬スル全國ノ貳萬千圓ニ比スレハ壹萬參千餘圓ノ増加ナリ、

町村歳支出ノ主ナルモノハ教育費ニシテ四割二分ヲ占メ役場費ノ一割八分土木費ノ六分之ニ亞キ尙著明ナルモノハ補助費公債費、衛生費等ナリ、

諸稅負擔 大正十年度國稅總額ハ四百四拾六萬八千六百七拾六圓ニシテ前年度ニ比シ參拾九萬貳千貳百壹圓ヲ増加タシリ、直接國稅ハ貳百拾參圓八千四百四拾六圓ニシテ前年ニ比スレハ拾九萬貳千四百九拾四圓ヲ増加セリ、

地 租 大正十年末ニ於ケル地租納稅人員ハ十一萬三千五百八十五人ニシテ前年ニ比シ四百九十九人ヲ減シタリ、人口百ニ付納稅者ノ割合ハ一九・〇〇ニシテ前年ニ比シ〇・三ニヲ減少シタリ、地租納稅額ハ九拾參萬七千百圓内田租七拾貳萬圓宅地租拾萬圓畑租八萬圓、雜地租貳萬圓ナリ、

地租納稅額ヲ郡市別ニ見レハ磯城郡ノ拾六萬圓最モ多ク、生駒ノ拾五萬圓、北葛城ノ拾貳萬圓添上ノ拾萬圓之ニ亞ギ八萬圓臺ノ地方ハ山邊、高市ニシテ多キ部ニ屬シ五萬圓臺ナレハ宇陀、南葛城ナリ、

所得稅大正十年ニ於ケル所得稅納稅人員ハ第一種百十九人、第三種一萬四千三十三人ニシテ前

年ニ比シ前者ハ七人ヲ減シ後者ハ二千七百三人ヲ増加シタリ、人口百ニ對スル第三所得稅納稅人員ハ二〇・三五人ニ當リ前年ニ比シ〇・四三ヲ増加シタリ、所得稅納稅額ハ合計九拾万壹千九百八拾參圓ニシテ前年ニ比シ拾七万六百參拾圓ヲ増加シタリ郡市別ニ見ルニ吉野郡ノ貳拾壹萬圓最モ多ク、奈良ノ拾參萬圓、高市ノ拾壹萬圓之ニ亞キ拾萬圓以下ニ在リテ生駒、磯城、北葛城等多キ地方ニ屬セリ、

營業稅 大正十三年度ニ於ケル營業稅納稅人員ハ六千六百二十六人ニシテ大部分物品販賣業ヲ營ムモノナリ、營業稅納稅額ハ貳拾五萬六千四拾貳圓ニシテ前年度ニ比スレハ貳萬四千五百九拾六圓ヲ増加シタリ、納稅額最多ナルハ奈良市ノ六萬圓ニシテ吉野及生駒ノ各四萬圓相亞ゲ多キ地方ニ屬ス、

縣 稅 大正十年度縣稅總額ハ貳百六拾萬六千百五拾四圓ニシテ前年度ニ比シ五拾貳萬壹千貳百六圓ヲ増加シタリ縣稅總額中地租割ハ四割二分戶數割ハ二割七分ヲ占ム現住一戶ニ屬スル戶數割ハ六圓五拾六錢ニシテ前年ニ比シ壹圓拾壹錢ヲ増加シタリ、

地 方 債 大正十年度末ニ於ケル地方債ノ總額ハ百八拾六萬四千七拾四圓ニシテ前年ニ比シ參拾五萬九千五拾五圓ヲ増加シタリ、地方債ハ市債ノ百拾七萬四千參百八拾五圓最モ多ク縣債ハ貳拾萬四千圓、町村債ハ貳拾四萬百八拾九圓郡債ハ拾六萬五千五百圓ナリ、

大正十年奈良縣統計書第一編

概 說

第一 地

位 置	1
地 勢	1
山嶽及河川	1
面 積	1
地 質	1
民業及物産	1

第二 戶 口

人 口	2
戶 數	2
著名ノ都邑	2

第三 教 育

學 齡 兒 童	3
小 學 校	3
幼 稚 園	4
盲 啞 學 校	4
各 種 學 校	4
師 範 學 校	5
高等普通教育	5
實 業 教 育	5
公 學 費	5

第四 社 寺

神 社	6
寺 院	6

第五 慈 惠 及 褒 賞

國 費 恤 窮	6
慈 善 團 體	6
日本赤十字社及愛國婦人會	6
慈惠救濟資金	6
褒 賞	6

第六 警 察

警 察 官 署	7
警 察 職 員	7
檢 舉 犯 罪 人	7
盜 難	7

第七 裁 判 所 及 登 記

民 事 裁 判	7
登 記	7

第八 衛 生

醫 師、藥 劑 師 及 產 婆	7
種 痘	8
法 定 傳 染 病	8

第九 交 通

道 路	8
鐵 道	8
索 道	8
通 信 機 關	8

第一〇 災 害

暴 風 雨 被 害	8
火 災	9

第一一 財 政

國 費	9
縣 費	9
郡 費	10
市 町 村 費	10
諸 稅 負 擔	10
地 方 債	11

統 計 表

一、土 地

第 一 本縣ノ位置	1
第 二 廣袤及面積	1
第 三 町村數及役場數	2
第 四 郡市町村區畫	3
第 五 警察區畫	6
第 六 稅務署區畫	7
第 七 裁判所及登記所區畫	7
第 八 陸軍管區	9
第 九 徵兵管區	9
第 一〇 憲兵管區	9
第 一 一 林務管區	9
第 一 二 土木管區	10

2 目 次

第一三	土木工區	10
第一四	流水檢查所區畫	10
第一五	蠶業取締所區畫	10
第一六	國庫金取扱銀行區畫	11
第一七	縣金庫區畫	11
第一八	官有地反別	12
第一九	民有々租地反別	13
第二〇	民有免租地反別	13
第二一	荒地及開墾地反別	14
第二二	民有地及價ノ平均及最高最低(一反步當)	15
第二三	土地實買價格(田一反步當)	15
第二四	同 (畑一反步當)	16
第二五	同 (宅地一反步當)	17
第二六	土地貸貸價格(田一反步當)	11
第二七	同 (畑一反步當)	18
第二八	同 (宅地一反步當)	19

二、戶 口

第二九	戶數及人口累年比較	20
第三〇	戶數及人口郡市別	21
第三一	本籍人口族稱別	21
第三二	本籍人口男女年齡別及有配偶者無配偶者	22
第三三	本籍人口生產不生產の年齡別	24
第三四	本籍高齡者人員	25
第三五	本籍有配偶者及無配偶者	26
第三六	本籍婚姻及離婚	26
第三七	本籍人出生	27
第三八	本籍人死亡	28
第三九	現住人口男女年齡別及有配偶者無配偶者	28
第四〇	現住人口生產不生產の年齡別	32
第四一	現住高齡者人員	32
第四二	現住有配偶者及無配偶者	33
第四三	現住死亡者月別	34
第四四	現住死亡者年齡別	34
第四五	現住人死産	35
第四六	出入人員	36
第四七	海外旅客下付人員及渡航人員	36

三、教 育

第四八	學齡兒童	38
第四九	市町村立小學校及學級	39
第五〇	市町村立小學校教員資格別	39

第五一	市町村立小學校教員俸給月額別	40
第五二	市町村立小學校教員俸給平均月額	41
第五三	市町村立小學校兒童	41
第五四	市町村立小學校入學及卒業者	42
第五五	幼稚園保姆並幼兒	43
第五六	盲啞學校教員並生徒	43
第五七	師範學校教員生徒並入學及卒業者	44
第五八	師範學校付屬小學校教員兒童	44
第五九	師範學校付屬小學校入學及卒業者	44
第六〇	公私立中學校教員生徒並入學及卒業者	45
第六一	公立高等女學校教員生徒並入學及卒業者	45
第六二	甲種程度公立農業學校 教員生徒並入學及卒業者	46
第六三	甲種程度公立工業學校 教員生徒並入學及卒業者	46
第六四	乙種程度公立農業學校 教員生徒並入學及卒業者	46
第六五	乙種程度公立私立職業學校 教員生徒並入學及卒業者	47
第六六	公私立實業補習學校 教員生徒並入學及卒業者	47
第六七	實業補習學校教員養成所教員生徒	48
第六八	公私立小學校ニ類スル各種學校	48
第六九	其他私立各種學校	49
第七〇	公私立圖書館	49
第七一	小學校教員檢定及免許狀授與人員	50
第七二	公立學校長正教員在職年數	51
第七三	公立學校醫擔任學校別	51
第七四	公學費歲入出總額	51
第七五	公學資産	52
第七六	學校基本財産及積立金	53
第七七	公立諸學校圖書館收支	53
第七八	縣教育資金	54
第七九	市町村立小學校教員加俸身金收支	54
第八〇	市町村立小學校教員加俸	55
第八一	市町村立小學校教員恩給基金並恩給收支	55
第八二	縣立師範學校及公立圖書館 職員國庫納金公費支出	55
第八三	壯丁教育程度	56
第八四	奈良帝室博物館陳列品	56
第八五	奈良帝室博物館觀覽人員及觀覽料	57
第八六	新聞紙及雜誌ノ發行	58

四、社 寺 及 教 會

第八七	神社數	59
第八八	神饌幣帛料供進指定神社	59

第八九 神職員數表.....60
 第九〇 神道教務所及説教所數.....60
 第九一 寺院數.....61
 第九二 住職員數表.....62
 第九三 佛堂教務所及説教所數.....62

五、慈惠及褒賞

第九四 慈惠救濟資金.....63
 第九五 慈惠救濟資金歲入出.....63
 第九六 日本赤十字社奈良支部職員及社員.....64
 第九七 日本赤十字社奈良支部收支金額.....66
 第九八 日本赤十字社奈良支部社員及年釀金額... 66
 第九九 日本赤十字社奈良支部入社員及年釀金... 67
 第一〇〇 日本赤十字社奈良支部社員寄付金及年釀金67
 第一〇一 愛國婦人會奈良支部會員並會費.....68
 第一〇二 國費救窮.....69
 第一〇三 慈善團體.....69
 第一〇四 行旅病人及死亡人.....70
 第一〇五 賞與人員.....70

六、警 察

第一〇六 警察配置官吏.....71
 第一〇七 刑法犯及特別法犯人員(拘留科料ヲ除ク).....71
 第一〇八 犯法犯人員罪種別(拘留科料ヲ除ク).....72
 第一〇九 檢舉犯罪人處警察犯處罰令諸犯則人員.....73
 第一一〇 警察犯其他即決處斷人員.....74
 第一一一 假出獄及假出場人員.....74
 第一一二 盜竊詐欺恐嚇及偽造變造ノ通貨屆出.....75
 第一一三 強盜竊其他被害財產.....75
 第一一四 盜竊其他贓物發見.....76
 第一一五 得遺失物處分.....77
 第一一六 自殺者ノ所爲.....77
 第一一七 自殺者ノ年齡.....78
 第一一八 自殺者ノ住所.....79
 第一一九 被殺害者.....79
 第一二〇 災害其他ノ事故ニテ死セシ人員.....79
 第一二一 警察上死傷セシ人員.....80
 第一二二 救護.....80
 第一二三 消防組.....81
 第一二四 銃砲及火藥類ノ賣買高.....81
 第一二五 警察取締ニ關スル各種營業.....82
 第一二六 貸座敷及娼妓.....85
 第一二七 警察上ニ係ル賞與.....85

七、裁判及登記

第一二八 民事第一審訴訟件數及種類.....86
 第一二九 民事第一審訴訟金額價額階級.....86
 第一三〇 民事控訴件數及種類.....87
 第一三一 民事控訴訴訟金額價額階級.....87
 第一三二 民事抗告件數.....87
 第一三三 破產件數及種類.....88
 第一三四 非訟事件.....88
 第一三五 和解事件.....89
 第一三六 督促件數及種類.....89
 第一三七 強制執行及種類別.....90
 第一三八 強制執行終局債權額及階級.....90
 第一三九 家資分斡件數人員
債權額及復權申立件數.....91
 第一四〇 訴訟及非訟事件貼用印紙高.....91
 第一四一 豫審事件.....91
 第一四二 刑事第一審終局被告人所遇.....92
 第一四三 刑事第一審執行猶豫.....92
 第一四四 刑事控訴件數.....93
 第一四五 刑事控訴終局被告人所遇.....93
 第一四六 公訴附帶私訴事件.....93
 第一四七 不動產登記(甲號).....94
 第一四八 不動產登記(乙號).....95
 第一四九 不動產登記登記所別.....96
 第一五〇 耕地整理ニ因ル登記.....98
 第一五一 營利ヲ目的トセサル法人登記.....98
 第一五二 商業未成年者ノ妻法守
代理人及支配人登記.....98
 第一五三 商事會社登記.....99
 第一五四 不動產登記(甲號)公共團體ニ係ルモノ.....99
 第一五五 產業組合登記.....100
 第一五六 住宅組合登記.....100
 第一五七 工場財團登記.....100
 第一五八 森林組合登記.....100
 第一五九 立木登記.....101
 第一六〇 立木登記登記所別.....101
 第一六一 登錄件數及登錄稅種類別.....102
 第一六二 登錄件數及登錄稅登記所別.....103
 第一六三 各種登記ノ謄本抄本及
閱覽等ノ件數手数料.....104
 第一六四 不動產買賣書實入金額及登記件數.....105

八、衛 生

4 目 次

第一六五 醫 師..... 106

第一一六 齒科醫及藥劑師..... 106

第一六七 產婆看護婦鍼灸術及藥業者..... 107

第一六八 現住死亡者病類別..... 108

第一六九 傳染病患者及死亡病類別..... 114

第一七〇 傳染病患者及死亡月別..... 115

第一七一 傳染病患者及死亡年齡別..... 116

第一七二 種痘成績..... 116

第一七三 私立病院組織及患者..... 117

第一七四 私立病院患者病室別..... 118

第一七五 娼妓健康診斷成績..... 119

第一七六 壯丁身體檢查成績種類別..... 119

第一七七 壯丁體量別人員..... 120

第一七八 壯丁身長別人員..... 120

第一七九 壯丁有病者人員..... 121

第一八〇 小學校兒童身體檢查
成績年齡別(男平均身長)..... 122

第一八一 同 (女平均身長)..... 122

第一八二 同 (男平均體重)..... 123

第一八三 同 (女平均體重)..... 124

第一八四 同 (男平均胸圍)..... 124

第一八五 同 (女平均胸圍)..... 125

第一八六 小學校兒童身體檢查成績種類別..... 126

第一八七 同 視力檢查成績(男)..... 126

第一八八 同 (女)..... 127

第一八九 同 眼疾檢查成績..... 127

第一九〇 同 身體各部檢查成績..... 128

九、交 通

第一九一 國道及縣道路線延長..... 129

第一九二 市町村道路延長..... 134

第一九三 橋梁數..... 135

第一九四 汽車鐵道ノ哩數及敷地面積(官營關西線)..... 135

第一九五 汽車ノ旅客貨物及賃金..... 136

第一九六 官營鐵道各驛發送貨物..... 137

第一九七 同 到着貨物..... 139

第一九八 私營鐵道哩數及敷地面積..... 298

第一九九 私營鐵道旅客貨物及賃金..... 140

第二〇〇 大阪電氣軌道ノ哩數及敷地面積..... 142

第二〇一 同 旅客貨物賃金..... 142

第二〇二 索道ノ延長貨物及賃金..... 143

第二〇三 諸 車..... 144

第二〇四 小 船(漁船ノ除ク)..... 145

第二〇五 通常郵便..... 146

第二〇六 小包郵便..... 146

第二〇七 電 信..... 147

第二〇八 電話交換度數及料金..... 147

一〇、災 害

第二〇九 水災及暴風雨被害..... 148

第二一〇 火災ノ原因別度數..... 150

第二一一 火災ノ度數及罹災戶數損害額..... 150

一一、財 政

第二一二 租稅外國庫歲入額..... 152

第二一三 國庫支出ノ本縣經費額..... 152

第二一四 諸稅負擔額..... 157

第二一五 國稅徵收額..... 158

第二一六 地租徵收額ノ類別..... 158

第二一七 地租納額別人員..... 159

第二一八 所得稅納額別人員..... 160

第二一九 國稅滯納人員及金額..... 160

第二二〇 國稅營業稅..... 161

第二二一 縣歲入額..... 163

第二二二 縣歲出額..... 164

第二二三 縣特別經濟歲入出額及資金..... 168

第二二四 縣稅徵收額..... 169

第二二五 縣稅滯納處分人員金額..... 169

第二二六 縣稅滯納人員及金額
(督促令狀ヲ發シタルモノ)..... 170

第二二七 縣稅徵收成績..... 171

第二二八 縣稅賦課ニ係ル商業稅等級別..... 171

第二二九 縣稅賦課ニ係ル工業稅等級別..... 172

第二三〇 縣有財產(土地建物)..... 173

第二三一 同 (公債證書、預金)
(貸付金、株券)..... 173

第二三二 郡歲入總計科目別..... 174

第二三三 郡歲入科目別..... 175

第二三四 郡歲出總計科目別..... 176

第二三五 郡歲出科目別..... 177

第二三六 市町村歲入總計科目別..... 179

第二三七 市町村歲入科目別..... 180

第二三八 市町村歲出總計科目別..... 181

第二三九 市町村歲出科目別..... 182

第二四〇 市町村稅滯納處分..... 184

第二四一 地方債借入償還並現在高..... 184

一、議員選舉

- 第二四二 貴族院議員及互選有權者…………… 185
 第二四三 衆議院議員及選舉有權者…………… 185
 第二四四 縣會議員選舉有權者…………… 186
 第二四五 市町村會議員數及選舉有權者調…………… 186

一三、官公吏及恩給

- 第二四六 縣官吏(階級別)…………… 187
 第二四七 縣吏員 階級別)…………… 188
 第二四八 郡吏員ノ一(階級別)…………… 191
 第二四九 郡吏員ノ二(郡別)…………… 192
 第二五〇 市町村吏員ノ一(人員)…………… 192
 第二五一 市町村吏員ノ二(報酬俸給年額)…………… 193
 第二五二 國費年金恩給及扶助料受給者…………… 193
 第二五三 國費年金恩給及扶助料支給金額…………… 194
 第二五四 小學校教員巡查退職料及扶助料並受給者 194
 第二五五 市町村吏員退職料受領人員及金額…………… 195

一四、附 錄

- 第二五六 本縣管轄地ノ沿革…………… 1
 第二五七 山嶽ノ景狀…………… 7
 第二五八 瀑布ノ景狀及脈絡…………… 8
 第二五九 河川ノ脈絡…………… 9
 第二六〇 御 陵……………10
 第二六一 御 墓……………11
 第二六二 城 址……………11
 第二六三 名勝古蹟……………12
 第二六四 公 園……………13
 第二六五 特別保護建造物……………13
 第二六六 市町別婚姻離婚出生死産及死亡……………16